

分別収集で減量化を

ゴミ問題を考える



環境づくり 中心に

七月一日から資源ゴミ(金属類)の分別収集を——市では有効資源の回収とゴミの減量化に取り組み、市民のみなさんの協力を呼びかけています。

私たちの生活から切り放すことができない「ゴミ」は生活需要の多様な変化に伴い年々増えつつあります。今後のゴミ処理、環境づくりはこうしていけばいいのだろうか……

話された人

- 地区の衛生委員
 - 北村 武 (永田)
 - 浜田 亀 (片山)
 - 前田喜美子 (久礼田)
 - 山崎忠雄 (稲吉)
 - 秋沢みさを (東芝住宅)

- 清掃業者
 - 山崎良一 (大埔)

- 公害環境課
 - 香南清掃組合

- 広報委員

業者が週一回、不燃物は二百八十五カ所のステーションを一業者が月一回、廻っています。

▼各地区の現状や日頃お気づきになっていないことはいくつかあります。

▼現在市内には約三百人の衛生委員がいます。市民四万四千人を割り一人当たりの割合が約五分の一人。それぞれの委員さん忙しい仕事をもちおられる状態のなかで、衛生委員に任せっきりというところがただ見つけられます。

▼委員の約八割が女性。あまり大きな声でさしでがましくいろいろな人に言われるということも聞きます。

▼やはり一斉収集のときには男の委員さんが。

▼公民館館長さんと兼ねている場合はかなりスムーズにいっていると思ふのが、公民館長連絡員、班長さん、婦人団体、青年団、老人クラブなど、部落一丸となつて

やっていたただいたらなお一層向上するのではないのでしょうか。

▼最近はいくつかありますが、年がら年中不燃物が残っているところがあります。商店街とか民家の近くにステーションがあれば気がつけますが、人の家に迷惑のかららないところはみんなが自由に置いていきます。

▼一つ残っていたら、いつでも持ってきて置いていきますね。

▼収集後に残っていたらマイクで放送して取りにきてもらうようにして徹底しています。

▼部落公民館の活動の中心は「環境づくり」にあるという考えで、これを中心に進めています。地区の組織づくりはほぼ順調。ただ、終戦の時に四十戸くらいだったところが戦後の急激なほうちうようで現在四百三十戸。地区の大部分が一時的に居住している人で、何代も前から住んでいる人は少りの

市民の協力で

分別収集

日頃、収集を直接担当されているいろいろな苦労があると思いますが、その中で気づかれたことなどありませんか。

▼再生資源が非常に多く出されている。とくに最近多いように感じます。雑誌、古新聞などが生ゴミの中に。

▼「再生資源はこうして」という

▼今日はお忙しいところありがとうございます。みなさんには、よりよい環境づくりのために日頃よりご協力願っていますが、ゴミ問題についていろいろお話しをうかがいたいと思ひます。市の現状からお聞かせ下さい。

▼五十一年度でみると、一般ゴミの収集量が四千四百六十ト、一日十三ト、袋にすると年間約八十九万個が三島の焼却場で処理されています。不燃物は年間一千三百四十九ト、一日約四トが千屋崎山に埋立て処理されています。

また、一般ゴミの収集は市内五百四十三カ所のステーションを二

施できるように体制づくりをしようとしています。

▼この分別収集で市としてどんな利点がありますか。

▼まず金属類の再生利用ができるということ。埋立て地も長くもちます。また、市がお金を出さなくても収集ができ、順調にいくと地区の組織づくりができるような若干の資金のみかえりがあります。

▼何もかも一度に分けて収集するといつてもできるものではないので、まず金物類とその他の不燃物とを分けて、ということ。

▼となりの高知市でも去年の七月から再生資源の処理をしており、見学にも行ってきました。地区の衛生委員会、連合会では、今後この問題にとくに力を入れていきたいと考えています。

▼私の地区ではこんな変わったことをしているという話はないのでしようか。

▼ゴミ袋の中に紙類とか燃えやすい物をどんどん入れてる。石油カンを切って燃している人もいますが、そこで部落で作ろうということになり地区の衛生委員会がドラム缶を使って十五個くらい燃やすところを作りました。

▼一回の地区の一斉清掃に子供の参加を呼びかけています。子どもが参加することによって母親が関心をもつようになるから。

▼第三日曜日を河川清掃の日として昨年十二月から実施していただきます。回を重ねることにより、みなに喜ばれています。

▼いくら清掃してもやっぱり上から流れます。

▼高知市の新木、高須地区の人たちが第三日曜日に「船入川をきれいにしよう」と清掃してくれている。しかし、ハッポースチロールなんかがどんどん下流に流れてくるというのでおしかりをうけました。このため、市でも第三日曜

日曜日に周辺を見直しながら河川の清掃をしようという話はないのでしようか。

▼事前に連絡していただけたら、市から車を出して収集していただきます。

▼ゴミ問題を考えるときに、なにもかも市や県がやることの前、自分でできることは自分ですという義務のあり方を考えるときがきているのではないのでしょうか。

お互いに手を取り合つて進んでいかなければならない問題です。今後もみなさんのご協力をお願いします。どうもありがとうございます。



北村 武さん



浜田 亀さん



前田喜美子さん



山崎忠雄さん



秋沢みさをさん



山崎良一さん

ように行政が何らかの方法で呼びかけては、焼却場の費用も安くすむのではないのでしょうか。

▼再生できるものについては学校のPTAが呼びかけて回収していますが、残念ながらあまり出してくれないようです。

▼ゴミ処理は三島の処理場でおおむね軌道にのっていますが、バンク寸前の不燃物の埋立て場所については公害課でも頭を痛めています。

▼最近、市民の頭の中には、不燃物にプラスして不燃物、とにかく家でいらぬものは捨ててしまふということが多い。

▼市民に協力していただけて分別して出してもらふ。埋立てるものを少なくするとともに、資源を再利用していくことが必要ですね。

▼金物類を分けて収集するという話を聞きました。

▼月一回の不燃物の収集日にはビン類などを収集して、その他にもう一度金属類だけの収集日を定めようと、市内全域へ向けて呼びかけているところです。七月から実

施できるように体制づくりをしようとしています。

▼この分別収集で市としてどんな利点がありますか。

▼まず金属類の再生利用ができるということ。埋立て地も長くもちます。また、市がお金を出さなくても収集ができ、順調にいくと地区の組織づくりができるような若干の資金のみかえりがあります。

▼何もかも一度に分けて収集するといつてもできるものではないので、まず金物類とその他の不燃物とを分けて、ということ。

▼となりの高知市でも去年の七月から再生資源の処理をしており、見学にも行ってきました。地区の衛生委員会、連合会では、今後この問題にとくに力を入れていきたいと考えています。

物を大切に

▼廃品回収とか再生とかいいいますが、その人にとっては不燃物でも、第三者から見れば結構役に立つものもあるのは。ゴミの間

子供の参加で母親も



題と合わせて物を大切にする必要はないのでしょうか。

▼月に一回ぐらい、市民のいいの場である土曜日で不用品の交換会をしてはどうでしょうか。

▼長岡の農協では大きな黒板をかまえて、きゅうりとか種の苗とか捨てるにはもったいない物を黙って書いておく、必要な人がそれを見てもらいに行くというシステムのように。なかなかいいアイデアですね。

▼一時期、土曜日で衣類の交換会をやっていたことがありますが、生活環境が変ってきたので、衣類品については、人の古着は——と考へがありますが、生活の道具といったものはいいのでしょうか。

▼まず小さい単位から、部落単位などでやるのがいいと思います。

▼高知市の新木、高須地区の人たちが第三日曜日に「船入川をきれいにしよう」と清掃してくれている。しかし、ハッポースチロールなんかがどんどん下流に流れてくるというのでおしかりをうけました。このため、市でも第三日曜